

(別紙5)

補助事業番号 28-2-101
補助事業名 平成28年度 引きこもり・不登校に対する支援活動 補助事業
補助事業者名 公益社団法人青少年健康センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

この事業は、引きこもり状態となっている若者たちが家族・友人及び地域コミュニティ、更には学校や職場の人々と交遊し合い、社会への再参加への道筋を探ることを目的としています。

(2) 実施内容

◆◆◆◆◆ (<http://skc-net.or.jp/>)

① 引きこもりを対象とした自立支援事業

この事業では引きこもりの若者が当法人の中間施設「茗荷谷クラブ」の利用を通して、社会参加のきっかけをつかみ、社会的自立が果たされ、再びひきこもることなく、本人の望む社会生活を生き生きと営めるようにすることを目的としています。ここでは臨床心理士などの有資格者のスタッフの下で会話や雑談、ゲーム、イベント等を楽しみながら、自分らしさを取り戻せるように運営しております。参加メンバー延数 2,204 名。



【写真】茗荷谷クラブ 初詣写真



【写真】活動場面

② 社会参加支援プログラム開催事業

引きこもりの若者が引きこもり状況から抜け出たあと、就労準備や社会参加の準備を提供することにより、引きこもりの若者一人一人が社会的自立を果たし、結果として全国のニートの数を減り、若者一人一人が生き生きと働いたり、活動したりする社会を目指す活動です。座学形式のグループワークから実際に就労・アルバイト体験ができる場を設けており、段階的に進めることができます。延参加実績2,360名

(別紙5)



【写真】 職場見学会

③ 青少年自殺予防事業

日本の自殺者数は減少傾向にあるなか、若者の自殺者数は増加傾向にあります。このような社会問題に対応するため無料の電話相談窓口「クリニック絆」を平成23年に開設しました。ここでは平日は相談員による相談、毎月各週の土曜日に医師による予約制の電話相談も無料で実施しております。生きづらさを抱え苦しむ方々に様々な立場でお話ができる電話相談窓口です。延利用実績1,092名



【写真】 電話相談場面

2 予想される事業実施効果

現在のひきこもり問題は高齢化の波が押し寄せており、40、50代を迎えたひきこもりの方々が多くなっております。それを支える家族も年金生活となっており、家族では支えきれない場面を多く、そのような相談内容を多く見受けられるようになってきました。このような社会問題に対して当法人ではより、自立支援事業、社会参加事業、電話相談事業を通して、早期に関わることを目的とし、問題を未然に防ぐ活動を進めております。

それぞれの世代の方々に今後を自分らしく生活できるよう、本人・ご家族と皆さんで話し合っていきたいと考えております。様々な方、青少年健康センターの事業に参加し社会と再びつながりを持てるような活動を行っていきたいと考えております。今

(別紙5)

後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

3 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益社団法人青少年健康センター（セイショウネンケンコウセンター）

住 所： 〒112-0006

東京都文京区小日向4-5-8 三軒町ビル102

代 表 者： 会長 齋藤友紀雄（サイトウユキオ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

担 当 者 名： 法人管理部長 鈴木隆之（スズキタカユキ）

電 話 番 号： 03-3947-7636

F A X： 03-3947-0766

E - m a i l： suzuki@skc-net.or.jp

U R L： info@skc-net.or.jp